

弁解内容がもたらす効果の違いに関する サクラを用いた実験

○山川樹¹・坂本真士²

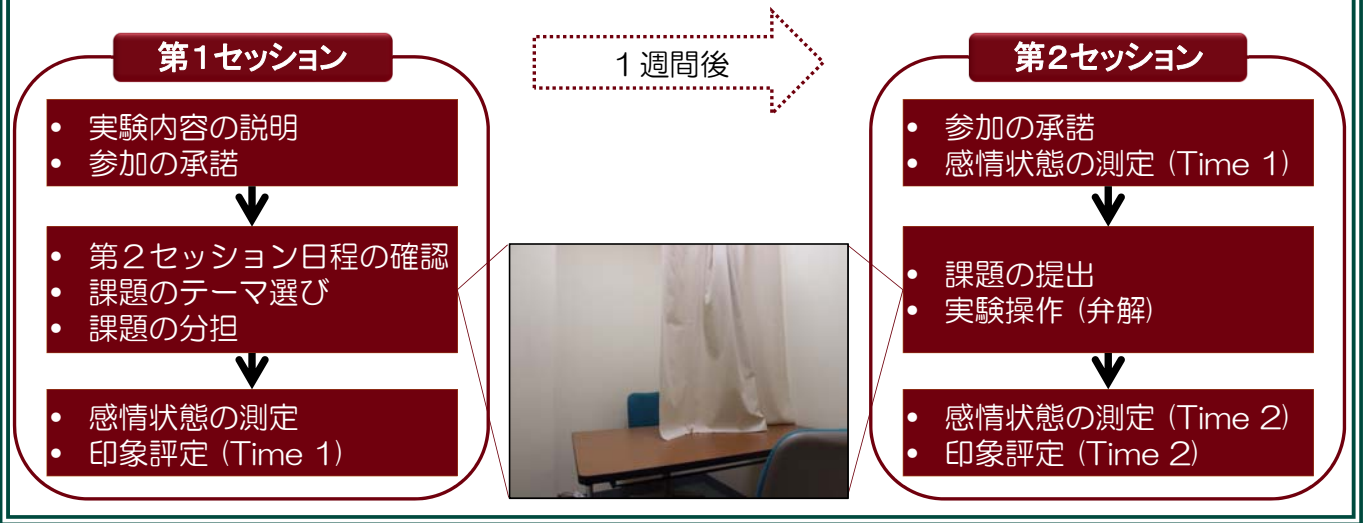
¹日本大学大学院文学研究科, ²日本大学文理学部

1. 目的

- ◆ 実験室実験で
- ◆ 弁解者(サクラ)と被弁解者(参加者)が、初対面ではない状況を作り
- ◆ 弁解内容の違いが被弁解者の感じる怒りと弁解者に抱く印象に及ぼす影響を検討する

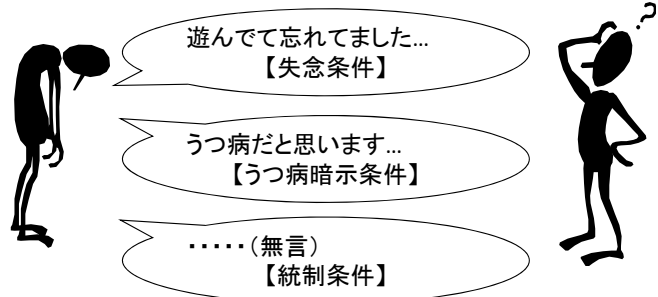
2. 方法

- ◆ 実験計画 : 3(弁解内容: 統制・うつ病暗示・失念) × 2(測定時点: 失敗前・失敗後) の混合計画
- ◆ 実験参加者: 心理学以外を専攻する女子大学生57名(平均年齢19.06歳, SD = 0.86歳)
- ◆ 実験協力者: 女子大学生5名(平均年齢21.00歳, SD = 0.63歳)



参加者とサクラがペアになって課題を分担
次回, 2人のやってきた課題を元に実験します!

しかし, 1週間後
サクラ「課題, やってきませんでした...」



3. 結果

弁解内容 × 測定時点の分散分析

- ◆ 印象得点 (Fig. 1)
 - 交互作用が有意
 - 失敗前 > 失敗後
 - 失敗後では
 - うつ・統制 > 失念

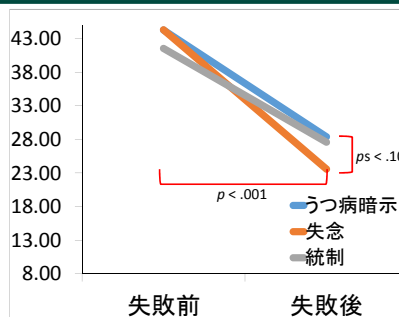


Fig. 1 印象得点の変化
注) 高得点ほど好印象

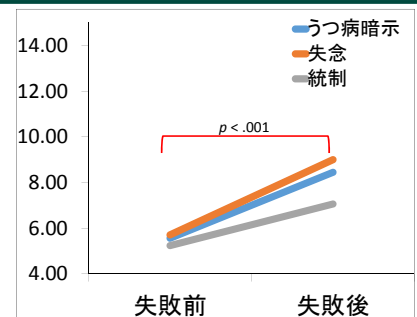


Fig. 2 怒り得点の変化
注) 高得点ほど怒っている

- ◆ 怒り得点 (Fig. 2)
 - 測定時点の主効果のみ有意
 - 失敗前 < 失敗後

4. 考察

- ◆ 弁解には, 失敗による悪影響を清算するほどの効果はない。
- ◆ 理由が示されないと(統制条件), 被害者は独自に納得できる理由を考える(事後インタビューより)。
- ◆ 弁解内容の違いは, 「とても上手な弁解」と「とても下手な弁解」ぐらい違わないと, 表れにくい。